

## 医療法人 八女発心会 姫野病院

### スタッフの団結を強化して コロナ患者受け入れも実現

医療ニーズに応えるために院長の独断で新型コロナウイルス感染症患者受け入れを決定。  
“新聞辞令”でこの事実を知ったスタッフに対して  
謝罪とともに理解を求めて、協力を得ることができた。  
院長の姫野亜紀裕氏に、そのいきさつを聞いた。(2021年2月4日取材)

#### ■ 感染症対応で顕在化した スタッフの離職問題

新型コロナウイルス感染症対応は主に公立・公的病院が担っている。だが、対応する病院の中には医師・看護師らの離職問題を抱えているところが存在する。

医療のスペシャリストである医師・看護師らは、自分の専門領域でのキャリアを形成していくことで、より良い医療・看護を提供したいと考えているならば、必ずしも勤務先にこだわる必要はない。

民間病院にも使命感から新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを行っているところがある。受け入れに際しては、スタッフの理解と協力を得るために多大な努力が必要であることが少なくない。

#### ■ 感染症患者受け入れに 適した全個室病棟

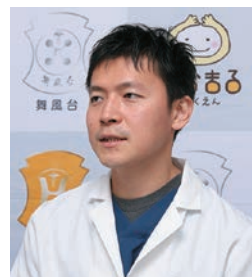
あらかじめ新型コロナウイルス感染症患者を受け入れる意思を福岡県や保健所に伝えていた医療法人八女発心会姫野病院は、2020年4月に同県で感染者が発生した際、患者を受け入れた。これまで約30人の患者が入院している。保健所が入院先の病院を選択するため、周辺市町村の患者

に限らず福岡市内に居住する患者もいた。

「病棟が感染症患者を受け入れやすい造りであることも、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れに適していました」と語るのは、同病院院長の姫野亜紀裕氏。2015年に開院した新病棟を造る際、病室をすべて個室にした。そのうち3室が感染症対応の陰圧室だ。万一、他の患者が感染したとしても多床室に比べて個室は感染拡大を抑えやすい。重症化したインフルエンザ感染患者の入院で確認できていた。

「先代院長が、プライバシーを重視して、全室個室を決めました。多床室だと見舞客は同室の患者さんに遠慮して早々に帰ってしまいますが、個室なら患者さんが満足するまで居られます。私の印象では見舞い効果で回復が早まっているようです」(姫野氏)。平時でも多床室は患者の性別を考慮しなければならないが、個室なら制約がない。

ちなみに、この個室は差額ベッド代を徴収していない。20平米の個室に2000円の差額ベッド代を設定したところ、患者だけでなく職員からも「負担増は困る」と抗議され、早々に撤回したそう。



医療法人 八女発心会 姫野病院 院長  
姫野 亜紀裕 氏

#### ■ 安全対策と就業支援で 使命感を刺激

同病院が新型コロナウイルス感染症患者を受け入れることをスタッフが最初に知ったのは報道を通してだった。「急きよ、集会を開き、驚きや不安を隠せないスタッフに対して独断で受け入れを決定したことをおわびしました。そして、専用コロナ病室を設けることで、他の入院患者が感染した場合に迅速に対応できること、感染対策を徹底することで職員を感染から守れることを説明して、団結強化を訴えました」(姫野氏)。

当初、看護師長クラスの管理職が新型コロナウイルス感染症患者対応の専門チームに志願した。感染症管理認定看護師が中心となり、PCR検査や防護具の装着手順を示す動画を作成し、院内で情報共有を図った。

これを機に他の職種のスタッフからも志願が増え、チームは30人ほどになった。

姫野氏は、病棟での感染対策以外にもさまざまな施策を実施した。自宅に帰れないスタッフの宿泊用にホテルをフロアごと借り上げ、妊娠しているスタッフは感染リスクがない病棟の担当へ異動させた。

さらに感染患者に対応した職員には月5万円の“危険手当”を支給し、感染した場合は労災を適用して出勤停止期間を特別休暇扱いとした。また感染が原因でスタッフが死亡したときは5000万円を保障する保険にも加入した。

病院の対応が奏功したかのように、「現在は各部署のスタッフが自信を持って感染患者に対応できるようになった」と姫野氏は語る。

コロナ禍において入院患者への見舞いを制限する医療機関が多い中、同病院は従前と変わらない対応を継続している。感染拡大防止対策が一定の効果を上げている手応えを感じているからだ。

## 急性期から自宅復帰まで すべてに対応する医療法人

熊本県に近い福岡県南部では、ここ数年、地震や集中豪雨などの自然災害を経験している。同病院では隣接するガソリンスタンドから軽油の供給を受けて発電する設備や、井戸を掘って、ライフラインの途絶に対応している。地域やその周辺が被災した場合、同病院は後方支援の機能も期待される。他の救急病院からの転院や、在宅医療を受けている患者が自

表 医療法人 八女発心会 姫野病院の概要

DPC対象病院	2009年～
病床数	一般7対1病棟 70床 地域包括ケア病棟 70床
診療科	整形外科、内科、小児科、脳神経内科、腎臓内科(人工透析)、リウマチ科、リハビリテーション科、糖尿病内科
主な関連施設	介護老人保健施設、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、ナーシングホーム、デイサービス、通所リハビリテーション



病院の外観。新病棟は多床室を廃止し、すべて個室にした。敷地内に有料老人ホームを開設している

宅にいられなくなった場合の受け入れだ。急性期に特化した病院の負担を減らせるように連携する。

同病院は急性期から回復期、そして関連施設で高齢者を受け入れる“医療・介護の百貨店”を自任する(表)。「地域で不足しているサービスに対応しているうちに、この形になった」と姫野氏。骨折や肺炎などの救急搬送を受け入れるほか、対応が難しい高次救急患者の回復期の転院を受け入れている。終末期のがん患者の緩和ケア、そのまま自宅復帰できない患者を関連施設で受け入れる。

同病院が“医療・介護の百貨店”となったのはマーケティングの結果だけでなく、先代院長から続く「断らない医療」を実践してきたためだ。姫野氏

は率先して難しい患者を受け入れ、スタッフに範を示してきた。

\* \* \*

同病院では、スタッフが積極的に診療・看護に向き合えるように医療事務作業補助者を手厚く配置したり、保育所を設置している。しかし、「機能面の充実是他院にもまねできるので、それだけではスタッフの気持ちをつなぎ留めることはできない。『ここでしかできない自己実現』など、意味性が必要です。そのために、自律性を高めて目的を見いだせる施策をあれこれ試しています」と姫野氏。

40代の若き病院リーダーは、同世代の病院経営者が集まるオンラインサロンを開設し、課題共有と解決方法の検討に生かしている。